

# The World Citizen

## 令和3年度 第1回学校評価保護者アンケートの結果と改善策について

Webページ上での実施が定着し、全校で702人(94%)の保護者の方にご回答をいただきました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。本年度から生徒も一人一台のクロームブックを活用しての実施となりました。アンケートの集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。お寄せいただいた貴重なご意見をもとに、日々の教育活動の工夫・改善に努めていきたいと考えております。第2回は、12月を予定しております。

\* 集計結果は、生徒・保護者の「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計割合(%)です。

評価項目	第1回集計結果		今後に向けての改善策
	前期	後期	
1 子どもは家庭や地域でも自分から進んであいさつをする。	86	85	感染症対策を講じた上で、「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味や力を理解し、より多くの教師が、あらゆる場面で生徒に声をかけられるようにする。
2 子どもは家庭で、学校での清掃活動の経験を生かしている。	62	60	生徒自己評価と職員評価は良いが、保護者評価は低い。学校ではしているが家ではあまりしない、と言える。家庭における環境整備の重要性について、感染症予防等との見地からも「保健だより」「学年通信」等によって、事あるごとに訴えていく。
3 子どもは学校が好きである。	93	85	感染症対策を講じた上で、朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、「環境が人を変える」という考えのもと、生徒が自身の可能性を広げることができる環境を整備していく。
4 子どもは英語や外国文化に興味がある。	85	83	実践的なコミュニケーション場面や課題解決型の活動を感染症対策と両立できるように工夫しつつ、国際的なコミュニケーション能力を高めるとともに、ICTツールを用いた評価の仕方についても研究し、指導に生かしていく。
5 イングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、海外修学旅行などにより、子どもの国際コミュニケーション能力は高まっている。	83	76	感染症対策を講じた上で、各学年において、授業と行事を関連付けながら、興味関心や意欲をさらに高められるように行事の改善や工夫をしていく。
6 学校は、授業や学校行事を通じて我が国の文化・伝統に触れる機会を設けている。	88	83	日本及び世界の文化・伝統と関連させた授業内容に加えて、このコロナ禍を乗り切る視点を加えた授業が、全ての教科で実施されるよう取組を強化する。
7 子どもたちには、確かな学力身につけている。	86	80	コロナ禍においても可能な限り工夫を加えて協働学習を実践し、年2回実施する授業アンケートの結果を全職員で共有し、生徒の理解度を把握するとともに、授業の向上を図る。
8 英語や数学の少人数学級は生徒の学力向上に効果がある。	95	93	少人数指導のメリットが最大限に生かせるように常に指導方法を見直すとともに、更に効果のある教授法を校内研修等で共有し、授業の質を高める努力を続ける。
9 子どもは、自分なりの目標をもって学習に取り組んでいる。	84	83	感染症予防に留意し、課題探究的思考力・ディープアクティブラーニングによって生徒が生き生きと学ぶ授業をめざし、全職員が生徒の発達段階に応じた授業づくりにつとめる。
10 子どもは、毎日家庭学習に取り組む習慣が身につけている。	77	76	すべての生徒が家庭における学びを充実させ、望ましい学習習慣を確立できる課題の課し方を、全校・各学年・各教科で検討し共有する。
11 子どもの様子から、子どもは先生との信頼関係が築けている。	89	83	コロナ禍において、全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「すべては生徒の成長(健全育成)のために」適切なタイミングで叱咤激励を行なう。
12 学校生活を通して、子どもはクラスの友人とよりよい人間関係を築いている。	93	90	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指していく。
13 子どもは自分の健康に留意して生活している。	84	82	新型コロナウイルスやインフルエンザの予防対策、ストレスコーピングを中心とした健康行動の徹底を図るための指導を、教育活動全般を通してさらに充実させる。
14 子どもは、部活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	94	82	3年生から4年生にかけての部活動加入のスムーズな展開と4年次以降の部活動継続の声掛けを徹底するなど、現状の取組を維持する。
15 学校はいじめ防止に努め、いじめが発生した場合にも解消してくれた。	86	84	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、「いじめは何があっても許さない」という姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し、生徒との関係を密にして、いじめ等の生徒の抱える問題の早期発見に努める。
16 子どもは、自己を理解したうえで将来の職業を選択しようと考えている。	82	88	「主体的・対話的で深い学び」によって自己を理解し、協働学習によって自己有用感を向上させる指導を行う。(前期) 探究的な諸活動を通じて、自分自身が将来その解決に取り組みたいと考える社会的課題を設定する指導を行う。(後期)
17 子どもは、自分自身の進路に関する意識を有している。(後期課程のみ)		91	課題解決に向けて、蓄積した学力を得点力に、さらに合格力に転化させ、第一志望校への現役合格を実現する指導を行う。
18 子どもの進路希望を理解している。	81	90	感染状況を注視しながら、できるかぎり対面形式で、生徒・保護者がともに参加する進路講演会を実施し、家庭におけるキャリア観の構築を促す。
19 学校から、生徒・保護者に必要な進路情報の提供を受けている。	75	85	できるかぎり複数の資料を提供し、文理選択・科目選択をはじめ、二者面談・三者面談における各生徒に対する個別指導を充実させる。
20 進路講演会や進路関連行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	90	88	年間行事計画にしたがい、各学年段階にとって適切な内容の進路講演会・進路学習会を実施する。
21 学校のwebページには、新しい情報が定期的に載っている。	84	83	部活動やその予定、志願者に対する情報等をこまめに更新すると共に、コロナ禍で変更等を余儀なくされている学校行事や授業に関する情報発信にも力を入れる。
22 保護者向け学校行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	91	89	関係各部との連携のもとより効果的な行事となるよう取組を深める。
23 学校は、適切に文書やメール等で連絡してくれる。	87	86	一斉メールの運用を適切に行うこと等により、保護者にとって有意義な情報が各部署から適切なタイミングで発信されるようにする。
24 学校はPTA(保護者)と連携し、奉仕活動などの地域活動を行っている。	76	76	参加者の安全安心を十分検討した上で交流活動を積極的に実施する。
25 担当する授業でクロームブックを活用している。	94	92	今後も継続してクロームブックの有効活用ができるよう、公開研究授業研修の機会を中心に、教職員の情報交換を密に取り、その成果を授業に還元する。
26 交通安全教室や防災避難訓練は子どもの安全意識向上に役立っている。	92	91	全校生徒を対象にオンラインで交通安全教室を行い、HR、学年集会、全校集会(Meet)等で、「交通事故は命に関わり、常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導の柱とし、常々注意喚起をしていく。
27 学校の施設・設備は整備され、安全である。	90	87	生活安全、災害安全の点検が形骸化しないよう、職員と生徒、両者の視点から、また、より細やかな視点で実施する。

### 第1回学校評価保護者アンケート自由記述について

多くの貴重なご意見やご提案をいただいております。ご協力いただき、ありがとうございました。少数意見の中にも全体につながる貴重な意見があることを認識し、一つ一つ解決に向けて検討し、学校運営に生かしてまいります。